



1942年12月、ヘンシェル工場において、すでに量産が開始されていた重戦車タイガーI型を基として、更に強力な重戦車の設計が開始された。新重戦車にはVK4503(H)の試作名称が与えられたが、調度同時期に開発中であった新型中戦車パンターの設計思想を転用された為、タイガーの発展型というよりもパンターの重戦車型とも言える形態の車輛が出来上がった。試作車輛はその後各種テストによる多くの改修を受け1944年初頭に量産化が決定した時にはタイガーI型の重量56トンを12トンも上回る68トンの超重戦車となっていた。1943年度内に完成していた増加試作型の車輛を含む最初の量産型50両はヴェグマン工場製の180式ボルシェ型砲塔を装備していた。このボルシェ砲塔付タイガーII型はパンツァーレーア……戦車教導師団等にいち早く配備され1944年6月から8月にかけてのノルマンディ攻防戦にその姿を見せている。

タイガーII型の生産は1944年1月から開始されたが前述の様に前戦へ現われたのは夏になってからであり、生産型ではヘンシェル製の砲塔を搭載している。

タイガーII型の特長はなんと言ってもその強固な装甲と強力な火炮にある。搭載された43式71口径88ミリ戦車砲KWK43L71は重量10kgの43式徹甲弾を使用した場合2000mの距離で150ミリの装甲を貫徹可能であった。この事は当時のいかなる連合戦車をもノックアウトできる事を示す。又150~180ミリに及び前面装甲は連合軍戦車の75ミリ級主砲を持ってしてはまず貫

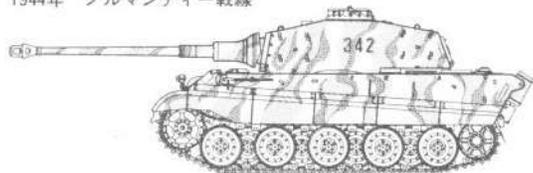
徹不可能であった。当時の連合軍側の記録にはタイガーに対しては必ず3台以上で立ち向う事、及び前面からの攻撃は無意味である事等が記載されている。

タイガーII型は動力としてマイバッハHL 230 P30型700馬力ガソリンエンジンを備えているが、この機関では68トンの巨体には少々アンダーパワーで路上及び路外における本車の機動性は当時の各国戦車に比べて一段劣るものとなっている。本車が大量に使用されたのは1944年のアルデンヌの戦い……別名バルジの戦い……及び1945年のハンガリア油田地帯の攻防戦であり敵対した米、英、ソの戦車兵達にとってキングタイガーの名は恐怖の代名詞となった。1945年4月の終戦迄に484輛のタイガーIIが生産され戦線へ投入されたが、この強力な戦車を持つてしてもすでに決定した戦局を打開する事は出来なかった。

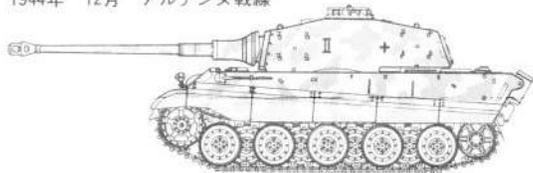
全備重量	69.7トン	最高速度	41km/h
全長	10.26メートル	超壕能力	2.50メートル
車体長	7.26メートル	超壕能力	0.85メートル
全巾	3.75メートル	武装	88ミリ KWK 43
全高	3.09メートル	1門 7.62ミリ 機銃	3挺
接地長	3.18メートル	弾薬	砲 84発
地上高	0.50メートル		銃 5,850発
履帯巾	0.75メートル	装甲	砲塔80 185ミリ
機関	マイバッハHL 230 P30 700H	車体80~150 上部40ミリ	
		下部40ミリ	

キングタイガー塗装参考図

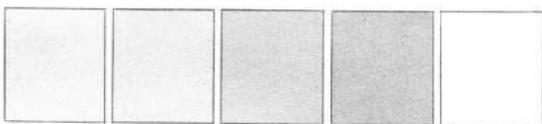
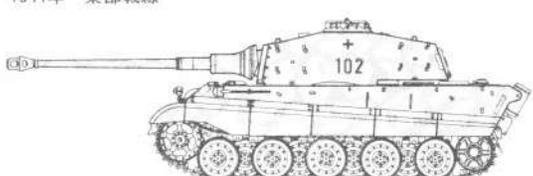
1944年 ノルマンディー戦線



1944年 12月 アルデンヌ戦線



1944年 東部戦線



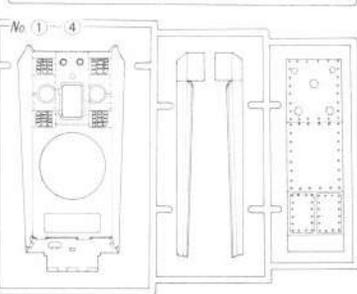
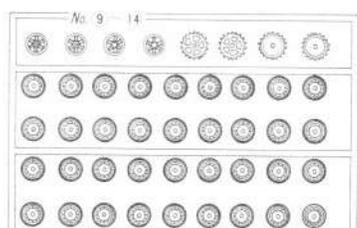
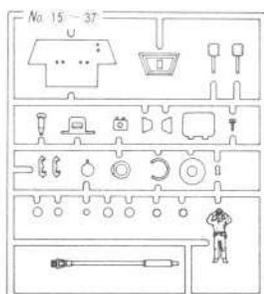
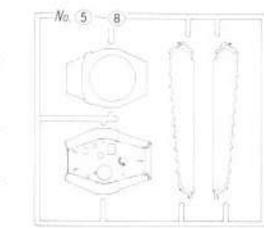
サンド グレー ダークブラウン ダークグリーン 白

基本色はサンドブラウン又はダークグリーンです。この上にはダークブラウン又はダークグリーンを適当なパターンに吹きつけて迷彩を施してあります。冬期には白く塗った車輪もありません。十字の独車マークは車体又は砲塔の両サイド及び後部、飾用マークは車体前面のサイドにつけるのが普通です。

- | | |
|---|-----------------------|
| ① | 重戦車部隊の戦術マーク |
| ② | オ1SS戦車師団ライプスタドルテAH |
| ③ | オ12SS機甲擲弾兵師団ヒトラーユーゲント |
| ④ | 戦車教導師団パンツァーレーア |
| ⑤ | 戦車教導師団パンツァーレーア |
| ⑥ | オ3SS戦車師団ダスライヒ |
| ⑦ | 機甲擲弾兵師団グロースドイッチェランド |
| ⑧ | オ2SS戦車師団トートエンコップ |
| ⑨ | オ5SS機甲擲弾兵師団ヴィーキング |
| ⑩ | R……連隊本部車 I II……大隊長車 |

部品表

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 車体下部 | 27 防楯 |
| 2 フェンダー右 | 28 対空機関銃架用リング |
| 3 フェンダー左 | 29 キューボラ |
| 4 車体上部 | 30 ライト |
| 5 車体側板(左) | 31 操縦室ベンチレーター |
| 6 車体側板(右) | 32 燃料注入口キャップ |
| 7 砲塔 | 33 オイル注入口キャップ |
| 8 砲塔下部 | 34 機関室ベンチレーター |
| 9 ガイドホイールA | 35 ホイルシャフト |
| 10 ガイドホイールB | 36 砲身 |
| 11 スプロケットホイール外 | 37 人形 |
| 12 スプロケットホイール内 | |
| 13 転輪A | |
| 14 転輪B | |
| 15 車体後板 | キヤタビラ |
| 16 砲塔前板 | |
| 17 排気管 | |
| 18 砲身止 | |
| 19 エスチップハッチ | |
| 20 ローターハッチ | |
| 21 操縦室ハッチ(右) | |
| 22 操縦室ハッチ(左) | |
| 23 機関室ハッチ | |
| 24 機銃 | |
| 25 シャックル | |
| 26 キューボラハッチ | |



1 車体下部と車輪の組立

- (1) 車体後板15に各部品を取りつけ(図-A)車体下部①を車体側板⑤⑥のガイドに押し込み車体後板15も同様に接着します。
- (2) 転輪13⑭は、前から2468列を図のように組合せ接着し、3579列を後から同様に接着します。
- (3) 起動輪11⑫を組合せ、シャフト35を通し、車体側板前、丸穴に接着します。
- (4) 誘動輪9⑩を組合せ車体側板、後穴に接着します。

※ 車輪の前後裏表に注意してください。

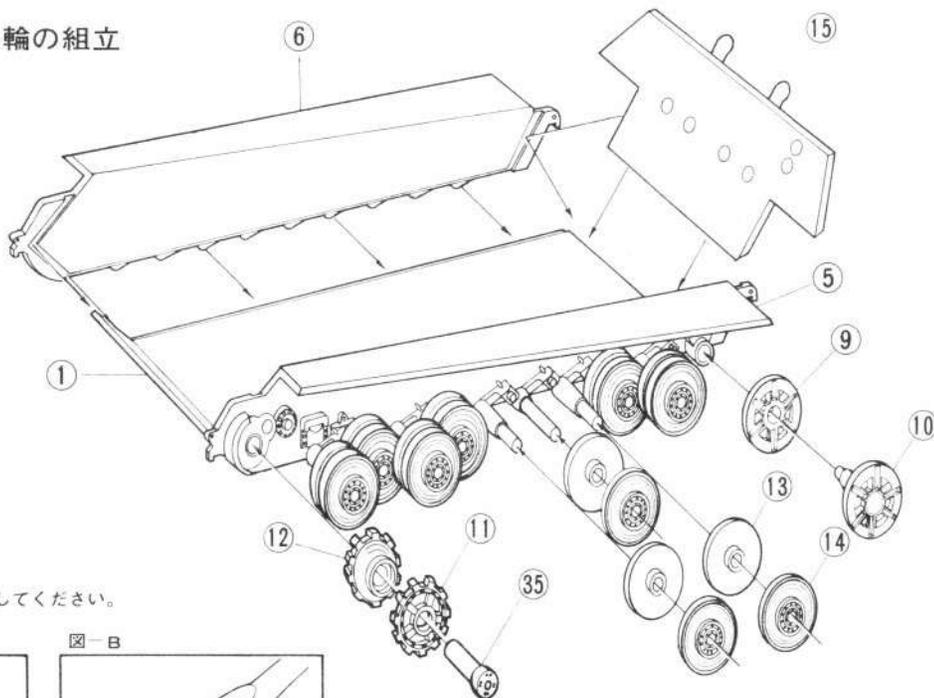


図-A

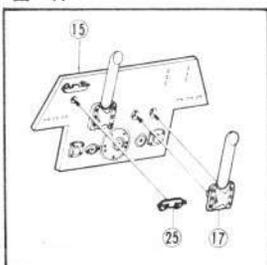
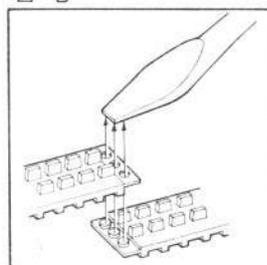


図-B



※ キャタピラの組立(図-B)

ピンを片方の穴へさし込み、焼いたドライバーでピンの先端を焼きつぶし連結させます。

2 車体上部の組立

- (1) 機銃の取付は図-Cを参照
- (2) フェンダー②③はキャタピラを取付けた後から車体上部④のサイドに接着します。

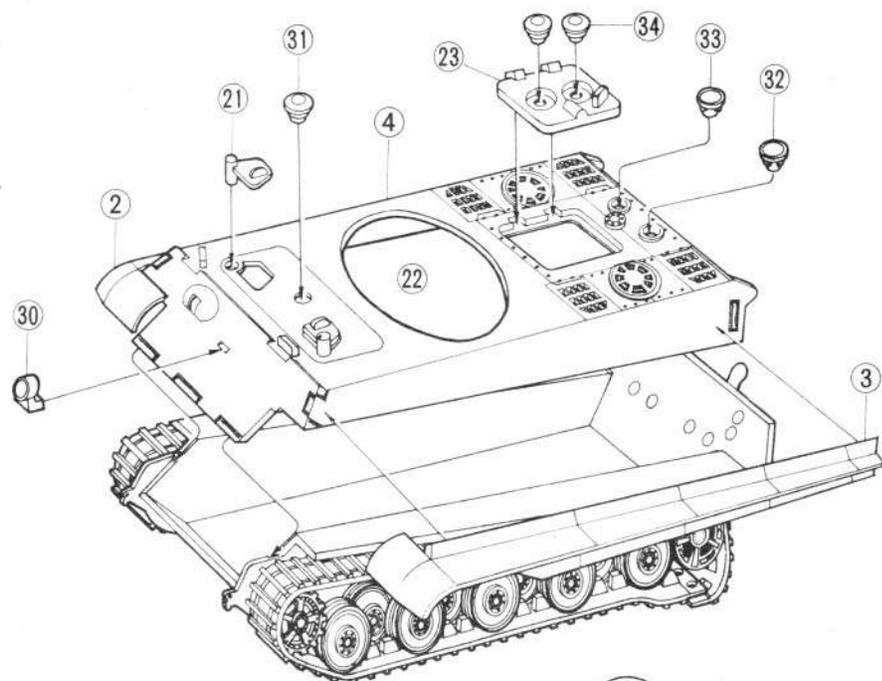
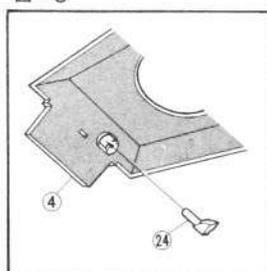
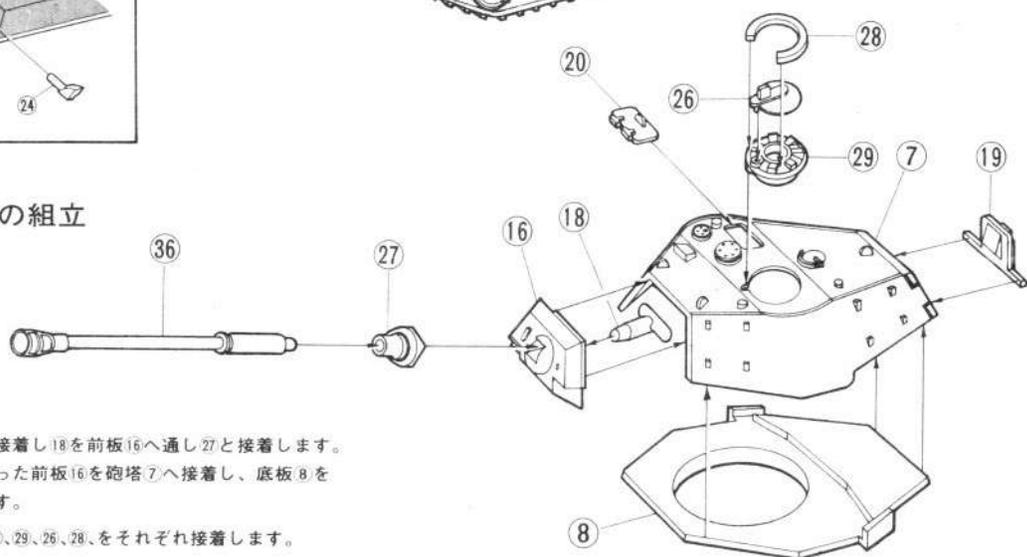


図-C



3 砲塔の組立

- (1) ③⑥と27を接着し18を前板16へ通し27と接着します。できあがった前板16を砲塔⑦へ接着し、底板8を接着します。
- (2) 部品19、20、29、26、28、をそれぞれ接着します。



4 砲塔と車体の組立

完成した車体に砲塔をはめ込みます。

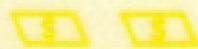


家庭用品品質表示法による検査商品品質表示
 取扱上の注意
 1. 幼児の手の届かないところに保存し、
 いたづらをしてはならない様注意して下さい。
 2. 火気に注意し燃焼をよくして下さい。
 3. 放棄に焼かない様注意して下さい。
 表示者 S Z 3000 S Z 3006 S Z 5013
 部品を取出した空箱は、幼児が壊つたり
 しない様に破りずめて下さい。

アジミ模型株式会社

静岡市登呂4丁目21-1 電話:0542)860346代(422

1234567890+



1234567890+



1234567890+



1234567890



1234567890



1234567890



1234567890



1234567890



RR II

RR II